

「六ヶ所廃棄物管理施設の安全性に関する総合的評価に係る報告書」に係る正誤表 (10/14)

No. 14

添付-8(3/3) 5. 竜巻により巻き上げられた重量物による影響	
誤	正
<p>5. 竜巻により巻き上げられた重量物による影響</p> <p>F2 の竜巻規模では、自動車が道から吹き飛ばされるとされており、重量物が舞い上がり、それが施設へ衝突する可能性がある。ただし、廃棄物管理施設の建屋においては、航空機（質量:20t、速度:150m/s）が衝突しても影響が生じないよう対策、あるいは安全上重要な構築物は分散配置する等の対策を講じており、竜巻により巻き上げられた重量物の衝突により、廃棄物管理施設に影響を及ぼすことは考えられない。</p>	<p>5. 竜巻により巻き上げられた重量物による影響</p> <p>F2 の竜巻規模では、自動車が道から吹き飛ばされるとされており、重量物が舞い上がり、それが施設へ衝突する可能性がある。ただし、廃棄物管理施設の建屋においては、航空機（質量:20t、速度:150m/s）が衝突しても影響が生じないよう対策を講じており、竜巻により巻き上げられた重量物の衝突により、廃棄物管理施設に影響を及ぼすことは考えられない。</p>

No. 15

添付-8(3/3) 5. 竜巻により巻き上げられた重量物による影響	
誤	正
<p>なお、竜巻の多い米国では、原子力施設において、設計上考慮しなければならない竜巻及び竜巻による飛散物が示されており、風速 112m/s の場合に設計上考慮しなければならない飛散物は、質量 1,814.4kg で最大水平速度が 42.4m/s の自動車とされている。これと比較しても、廃棄物管理施設で考慮されている航空機は、評価として十分に安全側である。</p>	<p>(削除)</p>

「六ヶ所廃棄物管理施設の安全性に関する総合的評価に係る報告書」に係る正誤表 (11/14)

No. 16

添付-9(3/6) 3. (2) 評価条件	
誤	正
<p>(2) 評価条件 (図3参照)</p> <ul style="list-style-type: none"> 排水設備以外の周辺防護区域フェンスでの雨水の流出入はないものとする。 降水は全て路面へ流れ落ちることとする。 雨水の敷地外への排出は排水路のみとする。 工場内に傾斜はなく、排水能力を超えた雨水は均一に拡散するものとする。 建屋地下のサブドレン排水設備から汲上げた地下水量も考慮する。 水位が建屋開口部高さに到達した時点に浸水とする。 	<p>(2) 評価条件 (図3参照)</p> <ul style="list-style-type: none"> 周辺防護区域フェンスでの雨水の流出入はないものとする。 降水は全て路面へ流れ落ちることとする。 雨水の敷地外への排出は排水路のみとする。 工場内に傾斜はなく、排水能力を超えた雨水は均一に拡散するものとする。 建屋地下のサブドレン排水設備から汲上げた地下水量も考慮する。 水位が建屋開口部高さに到達した時点に浸水とする。

No. 17

添付-9(4/6) 3. (4) 再処理事業所の敷地面積	
誤	正
<p>(4) 再処理事業所の敷地面積 周辺防護区域フェンス内の敷地面積及び建屋構造物面積は以下の値とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 再処理事業所の敷地面積:562,000m² 再処理事業所敷地内の建屋、構造物の面積:155,500m² 各建屋で最も低い開口部高さ:300mm 	<p>(4) 再処理事業所の敷地面積 周辺防護区域フェンス内の敷地面積及び建屋構造物面積は以下の値とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 再処理事業所の敷地面積:562,000m² 再処理事業所敷地内の建屋、構造物の面積:155,500m² 全建屋で最も低い開口部高さ:300mm

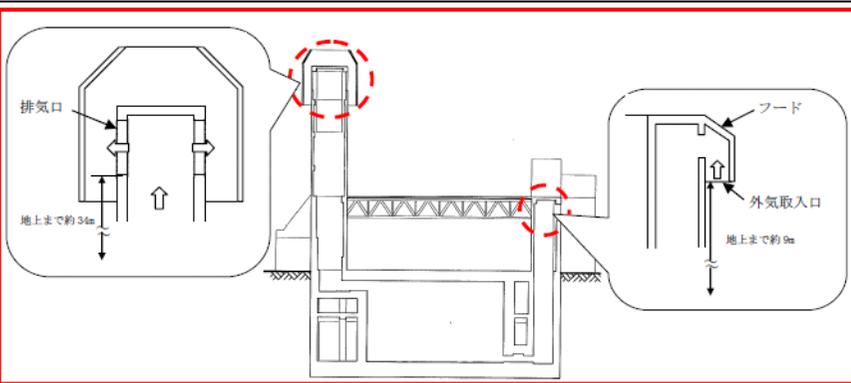
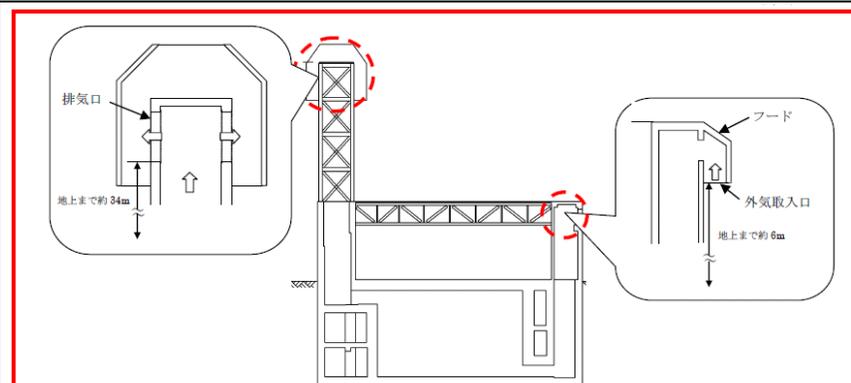
No. 18

添付-9(5/6) 4. ① 短期評価	
誤	正
<p>4. 評価 上記の条件に基づき、3. (1)にまとめた①～③を用いて評価を行った。</p> <p>①短期評価 敷地全体の1分当たりの雨水総体積は、以下のとおり。 $562,000\text{m}^2 \times 0.00225\text{m}/\text{min} = 1,264.5\text{m}^3/\text{min}$</p> <p>建屋を除く敷地の面積は以下のとおり。 $562,000\text{m}^2 - 155,500\text{m}^2 = 406,500\text{m}^2$</p> <p>敷地内の雨水全てと地下水最大排出量とを合計し、水位上昇率 X_0 は、以下のとおり。 $X_0 = (1,264.5\text{m}^3/\text{min} + 19.8\text{m}^3/\text{min}) / 406,500\text{m}^2 = 0.0032\text{m}/\text{min}$</p> <p>排水溝により排水を考慮したときの水位上昇率 X は以下のとおり。 $X = 3.2\text{mm}/\text{min} - 1.96\text{mm}/\text{min} = 1.24\text{mm}/\text{min}$</p> <p>水位上昇率 $1.24\text{mm}/\text{min}$ による1時間後の水位は 74.4mm である。各建屋での最も低い開口部高さは 300mm であることから、短期評価として10分間最大降雨 ($22.5\text{mm}/10\text{min}$) が1時間継続したとしても、建屋が浸水することはない。なお、10分間最大降雨が4時間以上継続すると、開口部からの浸水が考えられるが、過去のデータからも浸水のリスクは極めて低いと評価できる。</p>	<p>4. 評価 上記の条件に基づき、3. (1)にまとめた①～③を用いて評価を行った。</p> <p>①短期評価 敷地全体の1分当たりの雨水総体積は、以下のとおり。 $562,000\text{m}^2 \times 0.00225\text{m}/\text{min} = 1,264.5\text{m}^3/\text{min}$</p> <p>建屋を除く敷地の面積は以下のとおり。 $562,000\text{m}^2 - 155,500\text{m}^2 = 406,500\text{m}^2$</p> <p>敷地内の雨水全てと地下水最大排出量とを合計し、水位上昇率 X_0 は、以下のとおり。 $X_0 = (1,264.5\text{m}^3/\text{min} + 19.8\text{m}^3/\text{min}) / 406,500\text{m}^2 = 0.0032\text{m}/\text{min}$</p> <p>排水溝により排水を考慮したときの水位上昇率 X は以下のとおり。 $X = 3.2\text{mm}/\text{min} - 1.96\text{mm}/\text{min} = 1.24\text{mm}/\text{min}$</p> <p>水位上昇率 $1.24\text{mm}/\text{min}$ による1時間後の水位は 74.4mm である。全建屋での最も低い開口部高さは 300mm であることから、短期評価として10分間最大降雨 ($22.5\text{mm}/10\text{min}$) が1時間継続したとしても、建屋が浸水することはない。なお、10分間最大降雨が4時間以上継続すると、開口部からの浸水が考えられるが、過去のデータからも浸水のリスクは極めて低いと評価できる。</p>

No. 19

添付-10(2/3) 4. 外気取入口及び排気口の閉塞防止対策	
誤	正
<p>4. 外気取入口及び排気口の閉塞防止対策</p> <p>ガラス固化体貯蔵建屋及びガラス固化体貯蔵建屋 B 棟では、ガラス固化体から発生する崩壊熱に応じて生じる通風力によって流れる冷却空気により、ガラス固化体の崩壊熱を適切に除去する設計としている。そのため、外気取入口及び排気口が雪で閉塞することで、崩壊熱除去機能の喪失に至らないよう、以下の事項を考慮している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外気取入口及び排気口は、積雪量を考慮した高さに設置する設計としており、地上から外気取入口のフード下端までの高さを約 9m、排気口は約 34m としている。(図 2 参照) 	<p>4. 外気取入口及び排気口の閉塞防止対策</p> <p>ガラス固化体貯蔵建屋及びガラス固化体貯蔵建屋 B 棟では、ガラス固化体から発生する崩壊熱に応じて生じる通風力によって流れる冷却空気により、ガラス固化体の崩壊熱を適切に除去する設計としている。そのため、外気取入口及び排気口が雪で閉塞することで、崩壊熱除去機能の喪失に至らないよう、以下の事項を考慮している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外気取入口及び排気口は、積雪量を考慮した高さに設置する設計としており、地上から外気取入口のフード下端までの高さを約 6m、排気口は約 34m としている。(図 2 参照)

No. 20

添付-10(3/3) 図 2 ガラス固化体貯蔵建屋 B 棟断面図 (NS 方向)	
誤	正
 <p>図 2 ガラス固化体貯蔵建屋 B 棟断面図 (NS 方向)</p>	 <p>図 2 ガラス固化体貯蔵建屋 B 棟断面図 (NS 方向)</p>

No. 21

添付-10(3/3) 図3 ガラス固化体貯蔵建屋B棟平面図

誤

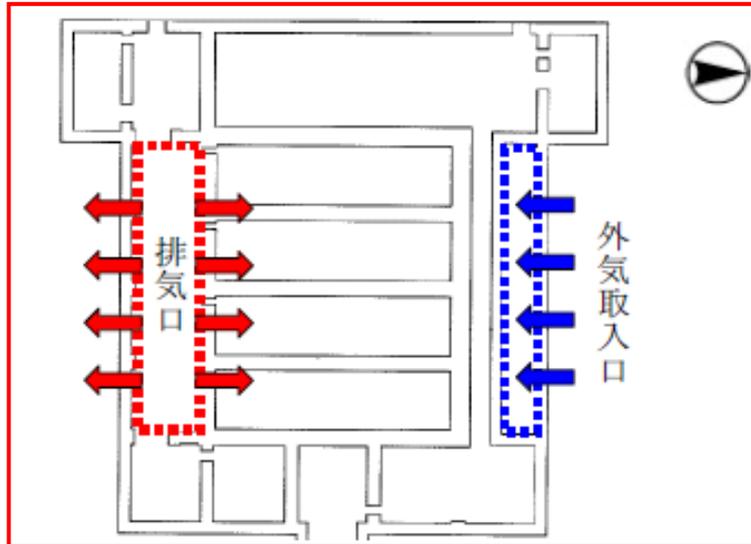


図3 ガラス固化体貯蔵建屋B棟平面図

正

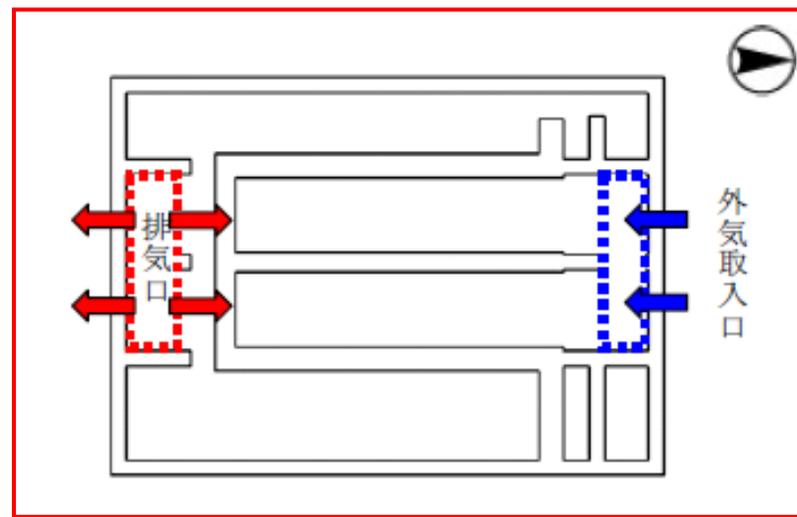


図3 ガラス固化体貯蔵建屋B棟平面図